

COVID-19新興後の非医薬的介入の実践とその緩和が 小児皮膚軟部組織感染症に与えた影響

なり あい あき よし
成 相 昭 吉

キーワード：小児皮膚軟部組織感染症，COVID-19，非医薬的介入，
免疫負債，マスクマウス症候群

要 旨

COVID-19新興後に取り組んだ非医薬的介入（NPI）の実践とその緩和が小児皮膚軟部組織感染症（SSTI）に与えた影響を検討した。

蜂窩織炎，膿瘍，化膿性リンパ節炎を SSTI として松江赤十字病院小児科入院例を対象に，Ⅰ期を2017年2月～2020年1月，Ⅱ期をCOVID-19新興後にNPIが励行されていた2020年2月～2023年4月，Ⅲ期をNPIが緩和された2023年5月～2024年4月とし，入院例数，臨床診断，部位，原因菌を後方視的に診療録から調べた。

41例が対象となりⅠ期23例，Ⅱ期4例，Ⅲ期14例で，一月当たりの症例数は順に0.6，0.1，1.2となった。蜂窩織炎18例，膿瘍12例，リンパ節炎11例，部位は頭頸部が25例（61%）でもっとも多かった。原因菌特定は蜂窩織炎2例（12%），膿瘍7例（64%），リンパ節炎3例（30%）で，血液培養陽性は実施33例中1例（3%）に過ぎず，他は採取膿から検出された。黄色ブドウ球菌5例，A群レンサ球菌3例，*Streptococcus intermedius* 2例の順であった。

1. は じ め に

2020年1月に重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2（severe acute respiratory syndrome coronavirus 2，以下SARS-CoV-2と略す）によるコロナウイルス感染症2019（coronavirus dis-

ease 2019，以下，COVID-19と略す）の新興により，国内外で感染予防策としてマスク着用・手指衛生・環境表面消毒・身体的距離確保などの非医薬的介入（nonpharmaceutical intervention，以下NPIと略す）が励行された。直後から，皮膚軟部組織感染症（skin and soft tissue infection，以下SSTIと略す）も含む様々な小児市中感染症が急減した¹⁻²⁾。松江赤十字病院小児科（以下，当科）でも急性疾患入院症例が激減，2020年11月に20床の小児専用病棟が閉鎖されCOVID-19病棟

Akiyoshi NARIAI

安来市医師会診療所

松江赤十字病院感染症科

松江赤十字病院小児科

連絡先：〒692-0206 安来市伯太町安田1700番地

安来市医師会診療所